

各 位

会 社 名 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社
 代表者名 代 表 取 締 役 社 長 田 島 秀 二
 (コード番号：7707 大証ヘラクレス)
 問合せ先 常務取締役業務本部長 秋本 淳
 (TEL.047-303-4800 <http://www.pss.co.jp/>)

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 22 年 5 月 14 日に公表した業績予想を下記のとおり修正するとともに、特別損失の計上についてお知らせします。

記

1. 通期連結業績予想の修正 (平成 21 年 7 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	5,600	800	780	700	16,134 円 98 銭
今回修正予想 (B)	5,637	718	653	549	12,651 円 81 銭
増減額 (B - A)	37	△82	△127	△151	—
増減率 (%)	0.7%	△10.3%	△16.3%	△21.6%	—
(参考) 前期実績 平成 21 年 6 月期	3,802	258	217	73	1,718 円 01 銭

(注) 今回修正予想における 1 株当たり当期純利益は、新株予約権の行使による株式数の増加を勘案し、期中平均株式数 43,393 株として算出しております。

2. 通期個別業績予想の修正 (平成 21 年 7 月 1 日～平成 22 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	4,600	500	620	600	13,829 円 98 銭
今回修正予想 (B)	4,464	399	410	414	9,540 円 71 銭
増減額 (B - A)	△136	△101	△210	△186	—
増減率 (%)	△3.0%	△20.2%	△33.9%	△31.0%	—
(参考) 前期実績 平成 21 年 6 月期	3,103	183	104	55	1,299 円 99 銭

(注) 今回修正予想における 1 株当たり当期純利益は、新株予約権の行使による株式数の増加を勘案し、期中平均株式数 43,393 株として算出しております。

3. 連結業績予想の修正理由

当連結会計年度は、世界的な新型インフルエンザの流行や国内の警察関係への納品などにより、当社の DNA 自動抽出装置に関する需要が盛り上がり、当社の予想を大きく上回る売上高が続いたことから、平成 22 年 5 月 14 日には 3 度目の業績予想の上方修正をいたしました。

その時の業績予想といたしましては、第3四半期までの盛り上がりは鎮静化するものの、第4四半期の収支は、ほぼ均衡するものと予想しておりました。

しかしながら、5月以降、予想を超えてユーロ安が進行し、欧州向け販売に関する利益率の低下を招いた他、自社の開発案件が進行し、前倒しで費用計上する状況が発生するなど、予想以上のコスト増となりました。その結果、営業利益ベースで予想比10.3%の下方修正となりました。

また、第4四半期において、営業外費用として為替差損34百万円（当連結会計年度では53百万円）、特別損失として投資有価証券評価損45百万円（当連結会計年度では75百万円）が計上される見通しとなったことなどから、経常利益は予想比16.3%、当期純利益は予想比21.6%の下方修正となりました。

ただし、こういった落ち込みは一時的なものと予想しています。当連結会計年度の増収増益を実現した背景には、遺伝子検査を利用する領域が、従来の研究分野から実際の臨床診断や警察の科学捜査など、実需を伴った様々な現場へと拡大していることがありますので、今後、中長期的にはマーケットの拡大が期待できるものと考えております。

当連結会計年度は、第4四半期に販売ペースが落ち着いたものの、年度を通じて業績は好調に推移し、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益のいずれも当社設立以来の過去最高の数字となりました。上場来、初となる配当の実施も予定しております。配当に関しましては、従来予想どおり1株当たり1,500円（分割実施前では3,000円相当）の予定であります。

4. 個別業績予想の修正理由

基本的には、連結業績予想の修正理由と同様であります。個別決算としては、営業外費用として、第4四半期に発生した為替差損は49百万円（当会計年度では74百万円）、投資事業組合運用損23百万円（当会計年度では45百万円）となっております。

5. 連結決算における特別損失計上のお知らせ

第4四半期において、投資有価証券評価損45百万円（当連結会計年度では75百万円）を特別損失に計上いたします。ただし、ベンチャーファンドへの出資割合に応じて、評価損の50%は少数株主損益として利益計上されます。

当社は、平成18年7月にベンチャーファンドを設立し、当社と事業連携可能なバイオベンチャーへの投資育成を行っています。しかしながら、バイオ関連技術によって収益を得るまでには長い時間を要する上、一昨年来の金融引き締めによってベンチャー企業への資金供給が著しく減少するなど、投資先企業の事業リスクが高まっています。こうした状況に鑑み、子会社であるバイオコンテンツ投資事業有限責任組合において、一部の投資先企業の株式に関し、保守的に評価損を計上するものとした。ただし、当社と投資先企業との事業連携に変わりはなく、積極的な姿勢で臨んでいく方針であります。

<参考>当連結会計年度末（2010年6月末）の投資有価証券（評価損計上後）

	当連結会計年度末簿価
	千円
ベンチャーファンドによる投資残高	92,075
エヌピーエス(株)（持分法適用会社）	135,420
合 計	227,495

※業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上